

# 書写における効果的な筆使い指導法の一提案 ——「4段階スモールステップ学習」と「空書き」の活用——

藤 井 浩 治

## はじめに

本研究は書写授業において、学習者が筆使いの技術を獲得するための効果的な指導方法を試行し、提案する研究である。

小学校書写における毛筆学習は第3学年から行われる。子どもたちにとって、人生で初めての体験である「毛筆学習」への興味関心は非常に高いものであり、どの子どもも期待に胸を膨らませて笑顔で学習に臨んでいる。しかし、毛筆の筆使いの技術の獲得は子どもたちにとって決して容易なものではなく、場合によっては失敗体験を積み重ねてしまうことにより書写に対する劣等感を持ってしまうことにもつながりかねない。そこで、毛筆学習における筆使いの指導方法の研究が求められることになる。

本研究ではその手法として「空書き」を活用したスモールステップの指導方法について試行する。小学校における「筆使い」を必要とする各学習単元の指導例を挙げ、安田女子大学・比治山大学・広島大学にて、実際に藤井が行った書写指導方法について報告する。

## 1. 運筆指導の工夫についての先行実践等

「運筆指導法」について記述のあった教授法のいくつかを調べてみる。

大正期の書き方教授法を見ると野地・島崎ら（1913）が教授様式を摸書法・臨書法に分類し、摸書法の中の「指頭法」の解説として「先ず指頭を以て手本若くは範書の文字上を数回なで後、凡案上又は書かんとする紙上に書いてみる、或は右手を高く挙げて空書せしむることもある。」と述べている。その目的として「筋肉上の習慣を与ふるのが目的で多く一学年に用ゐる。上の学年では、(略) 新たな筆勢などの現はれたるときに採る方法で、左まで価値あるものではない。」とあり、「空書き・指書き」は基礎的な指導法ではあるが、「筋肉上の習慣」「新たな筆勢」とあることから、「運筆動作」についてその目的を感じることができる。

また、野地・島崎は、「幼学年にありては運筆に『トンスウーウン』『チヨンーシユウグツ』杯の聲調を附して習はしめ、筆力の軽重、運行の遅速を齊一ならしむることが肝要である。」と擬音を用いた運筆指導の有効性についても触れている。

昭和初期の教授法を見ると、水島（1941）は「教授は説明を成るべく簡単にして、教師の示範を直観せしめ、或は運腕練習等により用筆の要領を会得せしめ」とあり、辻本（1931）は「言葉による説明よりも書写によつてその実際を示範し直観せしめるべき」であり、初歩の段階では「用筆の実際過程を如実に直観せしめ、筆の穂と腹とが如何なる所を通るか、又遅速の如何を感得せしめる過程示範」することが必要だと述べている。水戸部（1934）も「水を含ませた大筆を静かにそれに当て、筆の運動情態とその刻々に於ける筆の形状を直観させ、筆の運動の結果そこに現はれる点画の表現を観察させること」と「示

範」による運筆指導の重要性を説いている。

また、昭和22年の「(試案)学習指導要領 国語科編」では、初期の学習指導として「鉛筆を持って書くまえに、空書を数多くさせて、腕や手首の筋肉運動になれさせる。人さし指で机の上などに書く練習を何回もくり返して練習させる。」とあり、運筆の準備運動や漢字学習の定着として「空書き・指書き」を示している。

昭和後期の教授法を見ると、細矢(1970)は「示範は毛筆やチョークで書くだけでなく、いろいろな資料をくふう作成して活用すべきである。」と述べ、新居(1969)は「基本点画の筆づかい。などについて文章やことばだけでは理解させ、技能を習得させにくいので、視覚を通して会得するように示範や映画・オーバーヘッドプロゼクターなどを使うと効果的である」と述べて、運筆指導における示範の工夫について勧めている。

このように「運筆指導」については、これまで「空書き・指書き」「擬音」「示範」等が用いられてきたことが分かる。

## 2. 「空書き・指書き」の活用事例

「空書き・指書き」の活用としては、鎌田(1975)が筆順指導の方法として「空書、指書きなどにより、一斉に同一文字を筆順に従って書く。(略)何人かの子どもに指文字を楷書で書かせ、あやまりがあったら指摘させる。」と「空書き・指書き」を筆順指導に活用した指導法を紹介している。

清水(2014)が行書の特徴を生徒に発見させる際に「楷書と行書を空書して気付いたことを挙げてみましょう」と指示を出して特徴に気づかせる実践がある。「筆脈」指導の展開で荒井ら(2005)が『い』を机の上で指書きし、書く過程(空間でのつながり)を意識させる。(略)指書きのリズムを生かして『い』を毛筆で書いてみる。」実践を行っている。

小竹(1994)は「指書および空書は、小学校段階で実際に学習指導の場において導入され、大きな効果を上げている方法である。書かれている手本の字形をなぞり、指先を通じて字形を認識させようとするのが指書、空間に字形を予想させながら空中に文字を書かせるのが空書である。」として字形指導の効用を述べ、中学校の行書指導についての課題を指摘しつつも「行書には連続と省略が多くなされるが、ただただ書くものではない。ある程度のスピードが必要だ。要するに、一筆書きの要領だ。次の画へ、次の画へ流れる道は紙の上に想像して、まず指を筆だと思って、紙の上をすべらせてみよう。」という技能・技術の定着を目指すための工夫を紹介している。

このように「空書き・指書き」は「筆順」「筆脈」「字形」の認知における活用が多くみられる。

## 3. 小学校書写教科書における「筆使い指導」の工夫

初めての毛筆学習における「筆使い」学習においては、学習者にとって平易な学習となるように、書写教科書(光村図書出版・東京書籍)において以下のようにいくつかの工夫がなされている。

### (1) 毛筆による導入「線遊び」(光村・東書)

各点画の筆使い学習の前に、毛筆に慣れるための「線遊び」を行う。ここでは「うずまき」や「なみせん」簡単な図形など楽しんで線を引けるように工夫されている。

## (2) 始筆・送筆・終筆に分けた運筆の音声化 (光村・東書)

画を始筆・送筆・終筆に分けて「とん・すー・とん (光村)」や「とん・すう・びたっ (東書)」等擬態語を伴うことで、学習者に運筆がイメージしやすいように工夫されている。

## (3) 穂先の角度について (光村・東書)

穂先の角度を斜め45度に保ったまま、始筆・送筆・終筆と運筆することを写真や動画を使って分かりやすく解説している。

## (4) 筆圧について (光村)

「横画・縦画」では始筆・送筆・終筆まで同じ筆圧で運筆することを写真や動画を使って分かりやすく解説している。筆圧の変化する点画についても同様に写真や動画で分かりやすく解説している。また、筆圧を「3・強い」「2・普通」「1・弱い」等数値化して分かりやすく示している。

## (5) 難易度の高い筆使いの解説 (光村・東書)

「折れ」や「右払い」「はね」等、難易度の高い筆使いについて、写真や動画で分かりやすく解説している。

## (6) 穂先の通り道を図解 (光村・東書)

点画の筆使いの学習には、穂先がどこを通っているかを学習者に意識させることは重要な視点である。そこで薄墨を含ませた筆の先に朱墨を少し付けて運筆することで、穂先の通り道を視覚化する等工夫して図解している。

## (7) スモールステップを踏んだ学習 (光村)

学習者に対しすぐに毛筆で書かせるのではなく、墨の付いていない「乾いた筆」でなぞる体験を行った後に、筆に墨を含ませて書かせるというスモールステップを踏んだ学習。

以上の7点を見ても、各教科書の編集者が「毛筆学習」導入時の重要性を意識して、多くの工夫により学習者に苦手意識を生ませないように知恵を絞っていることが分かる。

#### 4. 本研究の意義

杉崎・沓名 (2013) は「毛筆使用は筆使い習得の難しさを伴い、硬筆においても筆記用具保持のストレスを抱えたままで脳内イメージ字形の認識を促進させるという指導では効率がよくない」として、タブレットパソコンを活用した「空なぞり」による実践の効果を示している。このことから、齋木・瀬谷 (2014) は「筆記用具保持のストレスを排除できるなぞり書き空書は、書字の際の運筆方法をイメージし認知することに効果があることをふまえると (略) なぞり書き空書の効果的な活用が、筆記用具による書字に有効に機能している可能性がある。新しい漢字を学修する際、まずは空書によって筆順や各点画の長さや方向を理解させ、なぞり書き空書によって、整えて書くための運筆方法を認知させるといった学習の段階を踏むことは大切である。」と述べ、また「漢字は書くことで覚えやすくなるが、空書により筆順や点画の用筆を確認してから、書字を行う方が効果的であることが推察される。」と述べ、これまでの「筆順」に加えて「運筆方法」や「用筆」への理解の向上の可能性を示している。

前述の通り書写教科書から見た「筆使い指導」にも多くの工夫点が見られる。しかし、丁寧に細かく分析して筆使いの要点を示すことは、分かりやすいという長所の反面、留意点が多いという短所も併せ持っている。

「筆使い学習」は実技を伴う学習であり、要点の理解は活動とともになされた方が学習者への定着は高いと考える。しかし、要点の説明後にすぐに毛筆で半紙に書かせる学習活動は、筆記用具把持のストレスを伴うとともに自己の筆使いの結果が表出されてしまい、失敗体験を生んでしまいやすい。

その意味では前述(7)における「乾いた筆」でなぞる学習活動(光村)は、要点の理解と体験を伴っており、結果も表出されることなく練習できる方法として優れているといえるが、一度墨をつけて書いてしまうと再度行うことができないことが短所である。そこで、筆使い体験における「乾いた筆」の代わりに何度でも体験できる「空書き」を導入し、齋木・瀬谷(2014)の考察を踏まえて、以下の通り4段階のスマールステップを踏んだ筆使い指導方法を提案する。

＜筆使い学習4段階スマールステップ指導法＞

- ①示範による「視覚理解」
- ②空書きによる「筆使い体験活動」
- ③ワークシート・毛筆による「筆使い補助書写活動」
- ④半紙・毛筆による「書写活動」

## 5. 実践例①「横画・縦画」

「横画・縦画」の筆使い学習は、穂先の角度や筆圧に変化がなくその意味では筆使いの容易な点画である。「横画・縦画」の筆使い学習を「4段階スマールステップ指導法」に沿って述べる。

### (1) 示範による「視覚理解」

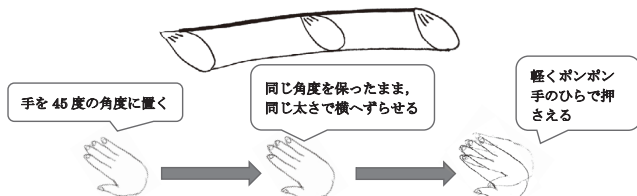
「水書板」等で、横画(縦画)を指導者が書いて見せる。できるだけ平易な筆使いとするため、注目させる要点は以下の程度に留めておく。

- ⑦穂先を45度に置き、同じ角度を保ったまま横(縦)方向にずらせる。
- ⑧同じ太さ(筆圧)で引く。
- ⑨終筆で軽く「ポンポン(擬態語の活用)」する。(軽く押さえる)

### (2) 空書きによる「筆使い体験活動」

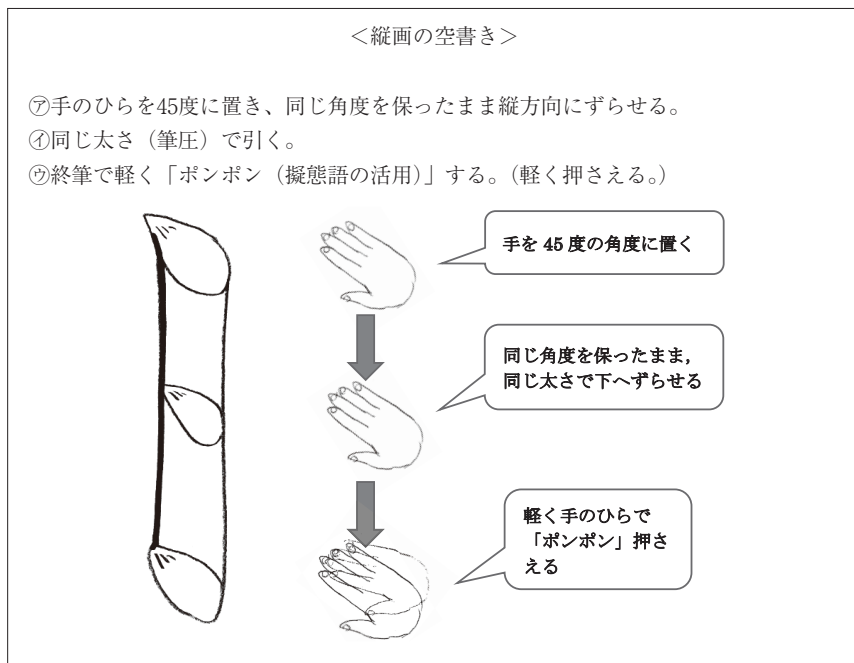
＜横画の空書き＞

- ⑦手のひらを45度に置き、同じ角度を保ったまま横方向にずらせる。
- ⑧指を閉じたまま同じ太さで引く。
- ⑨終筆で、指先をつけたまま手のひらを軽く浮かせて「ポンポン」する。

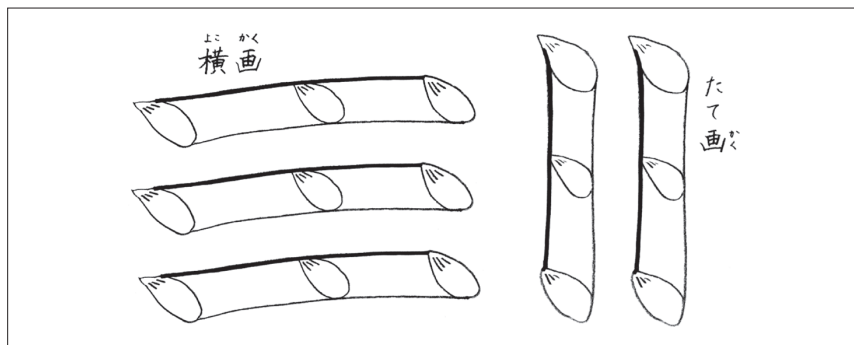


手のひらを「穂先」に例えてイメージするように指示する。手のひらの傾きで「穂先の角度」を表し、「筆圧」を指の開閉によって表す。指を開いた時は「強い筆圧」、閉じた時は「普通の筆圧」、5本の指をつまんだ時は「弱い筆圧」を表現する。

示範と同じ要点で指導者と共に一斉に空書きさせる。



### (3) ワークシート・毛筆による「筆使い補助書写活動」



上記のような「かご字練習」ワークシートを使用して、「穂先が同じ角度」で「同じ太さ（筆圧）」で運筆し、穂先が通るところを太線で表し、視覚的に捉えて練習できるように工夫する。ここでも、示範と同じ要点を意識させ、筆に墨をつけて一斉に書写させる。

## (4) 半紙・毛筆による書写活動

最後に、毛筆に墨をつけて半紙に横画（縦画）を書写し、発展して横画（縦画）を含む漢字を「まとめ書き」として書かせる。もちろんこれまで同様に示範と同じ要点を意識して書かせる。

＜横画を含む漢字例＞ 一・二・三

＜横画・縦画を含む漢字例＞ 十・土・王・上

## 6. 実践例②「右はらい」

「左はらい・右はらい」の筆使い学習は筆圧に変化があるため、筆使いの学習では筆圧を意識させることが重要な点画である。特に「右はらい」は「細いー太いー細い」と筆圧の変化が多く、子どもたちには難易度の高い筆使いの一つである。毛筆は、押さえて広がった穂先が、自然に閉じるようになってきているが、速く払うと穂先が自然に閉じるスピードに追いついていかない。筆圧をゆるめながら「ゆっくり」払うと、はらいの穂先が整う。

「右はらい」の終筆部では短い距離で穂先を閉じなければならないため、「かなりゆっくり」はらう必要があるため、「三回に分けて」筆圧を意識しながら払うように指導した。

以下「右はらい」を取り上げて筆使い学習を「4段階スモールステップ指導法」に沿って述べる。

## (1) 示範による「視覚理解」

「水書板」等で、右はらいを指導者が書いて見せる。できるだけ平易な筆使いとするため、注目させる要点は以下の程度に留めておく。

- ⑦穂先を45度に置き、その後少し角度を立てて進める。
- ⑧始筆は細く（弱い筆圧）で始め、送筆ではだんだん太く（徐々に筆圧を加え）、一番太い（筆圧が強い）所で一度止める。
- ⑨止めた後に進む方向を変えて3回に分けてだんだん細く（徐々に筆圧を弱めて）はらう。

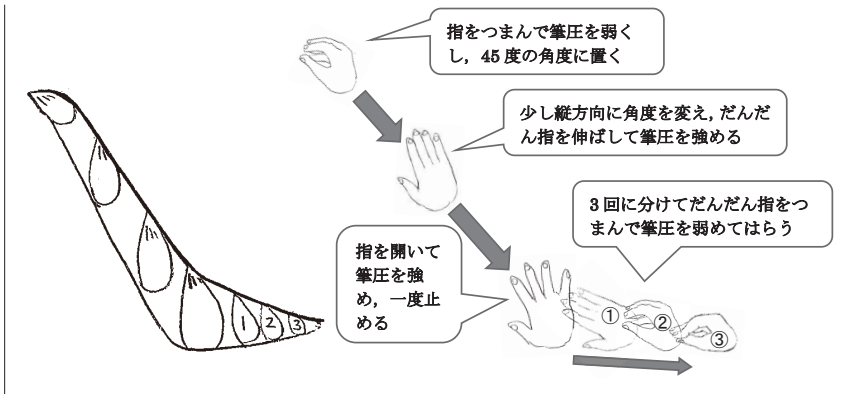
## (2) 空書きによる「筆使い体験活動」

手のひらを「穂先」に例えてイメージするように指示する。「筆圧」を指の開閉によって表す。指を開いた時は「強い筆圧」、閉じた時は「普通の筆圧」、5本の指を少しつまんだ時は「弱い筆圧」、強くつまんだ時は「かなり弱い筆圧」を表現する。

示範と同じ要点で指導者と共に一斉に空書きさせる。

＜右はらいの空書き＞

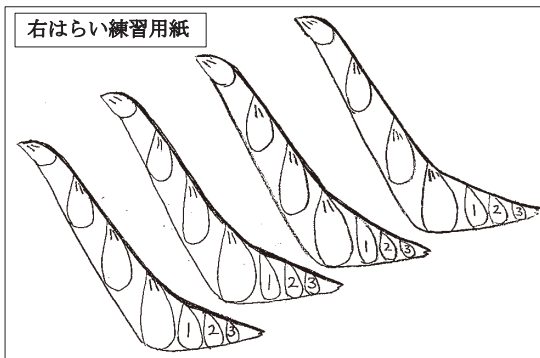
- ⑦手を45度に置き、その後少し手の角度を立てて進める。
- ⑧指先をつまんで細く（弱い筆圧）始め、だんだん指を広げて（徐々に筆圧を加え）、パーに開いて（強い筆圧）一度止める。
- ⑨止めた後に進む方向を変えて3回に分けてだんだん指先をつまんで（徐々に筆圧を弱めて）はらう。



### (3) ワークシート・毛筆による「筆使い補助書写活動」

下記のような「かご字練習」ワークシートを使用して、「太さ（筆圧）を変えて」運筆し、穂先が通るところを太線で表し、視覚的に捉えて練習できるように工夫する。ここでも、示範と同じ要点を意識させ、筆に墨をつけて一斉に書写させる。

- ⑦ 穂先を45度に置き、その後少し角度を立てて進める。
- ① 始筆は細く（弱い筆圧）で始め、送筆ではだんだん太く（徐々に筆圧を加え）、一番太い（筆圧が強い）所で一度止める。
- ⑦ 止めた後に進む方向を変えて3回に分けてだんだん細く（徐々に筆圧を弱めて）はらう。



### (4) 半紙・毛筆による書写活動

最後に、毛筆に墨をつけて半紙に「右はらい」を書写し、発展して右はらいを含む漢字を「まとめ書き」として書かせる。これまで同様に示範と同じ要点を意識して書かせる。

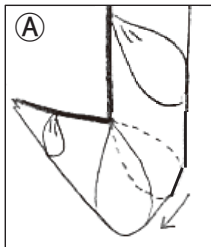
＜横画・縦画・左はらい・「右はらい」を含む漢字例＞  
 人 大 天 入 八 木 本 矢 失 走 未 末



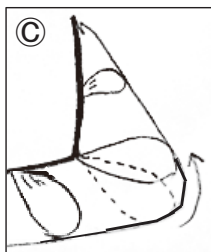
## 7. 実践例③「はね」

画の終筆の「はね」には、①「小」のように「縦画」の終筆につく「はね」、②「力」のように「折れ」の終筆につく「はね」、③「元」のように「曲がり（そり）」の終筆につく「はね」の3種類がある。この中で①と③については「はねる」前に一度筆を止めて穂先の角度を変化させてからはねるといふ筆使いが必要となるため、子どもたちには難易度の高い筆使いの学習の一つである。

①については、縦画の始筆を「斜め」の角度を保って下まで運筆する。しかし、「斜め」のままだと左上に向かってはねることはできない。なぜなら穂先の方に向かってはねるため、柔らかい穂先は押されてつぶれてしまうからである。はねる前に筆を止め一度軸を回して、穂先の角度を「斜め」から「縦」の角度に変えてからはねると穂先を整えてはねることができる。



③については、はねる直前までは「斜め」の角度を保ったまま穂先は横に移動している。しかし、「斜め」のままだと上に向かってはねることはできない。穂先の方に向かってはねるため、上記同様に柔らかい穂先は押しつぶされてしまうからである。そこで、はねる前に筆を止め一度軸を回して、穂先の角度を「斜め」から「横」の角度に変えてからはねると穂先を整えてはねるのである。



以下①縦画の「はね」を例として筆使い学習を「4段階スモールステップ指導法」に沿って述べる。

## (1) 示範による「視覚理解」

「水書板」等で、縦画の「はね」を指導者が書いて見せる。できるだけ平易な筆使いとするため、注目させる要点は以下の程度に留めておく。

- ①穂先を45度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ②はねる手前で一度筆を止め、穂先の角度を「斜め」から「縦」に変える。
- ③斜め左上方向にだんだん細くしながら（徐々に筆圧を弱めて）はねる。

## (2) 空書きによる「筆使い体験活動」

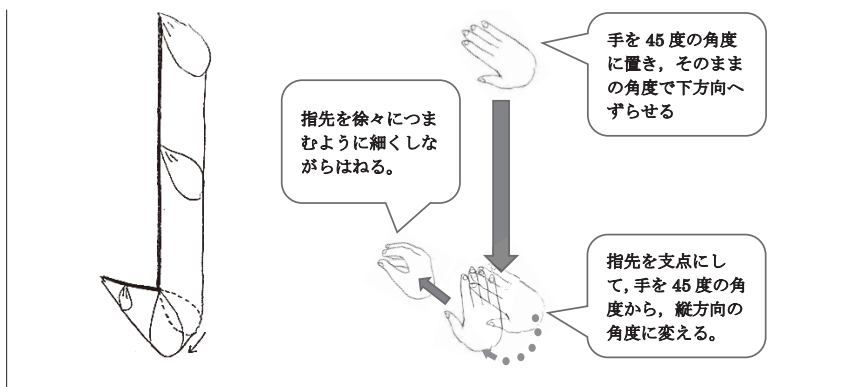
手のひらを「穂先」に例えてイメージするように指示する。穂先の「角度」を手のひらの角度によって表す。また、5本の指をつまんだ時は「弱い筆圧」を表現する。「はね」の筆使いは、「はね」手前で「角度」を変えるため、子ども達には非常に難易度が高く、実際に筆で書く前の「空書き」によるイメージトレーニングが有効である。

示範と同じ要点で指導者と共に一斉に空書きさせる。

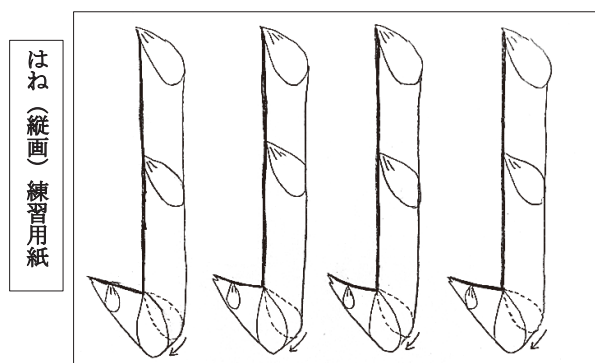
＜「縦画のはね」の空書き＞

- ①手のひらを45度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ②はねる手前で一度手のひらを止め、角度を「斜め」から「縦」に変える。
- ③斜め左上方向にだんだん指先をつまんで細くしながら（徐々に筆圧を弱めて）はねる。



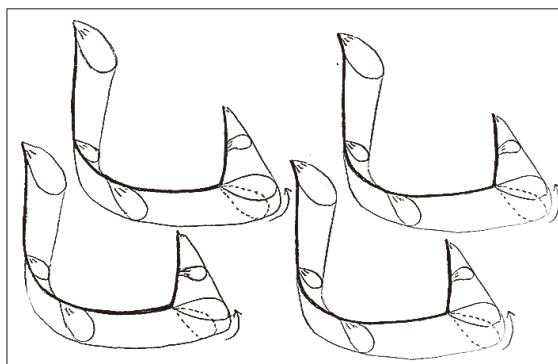


### (3) ワークシート・毛筆による「筆使い補助書写活動」



左記のような「かご字練習」ワークシートを使用して、「穂先の角度」を斜めから縦方向に変えてはねる筆使いが、視覚的に捉えて練習できるように工夫する。ここでも、示範と同じ要点を意識させ、筆に墨をつけて一斉に書写させる。

- ⑦穂先を45度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ①はねる手前で一度筆を止め、穂先の角度を「斜め」から「縦」に変える。
- ②斜め左上方向にだんだん細くしながら(徐々に筆圧を弱めて)はねる。



※資料として、◎曲がりの終筆の「はね」のワークシートも掲載しておく

はね(曲がり)練習用紙

## (4) 半紙・毛筆による書写活動

最後に、毛筆に墨をつけて半紙に縦画の「はね」を書写し、発展して縦画の「はね」を含む漢字を「まとめ書き」として書かせる。これまで同様に示範と同じ要点を意識して書かせる。

＜縦画の「はね」を含む漢字例＞

月 小 水 青 赤 村 竹 町 何 角 京 才 寺 少 内 肉 歩

## 8. 実践例④「平仮名（むすび）」

以上述べてきたように、「4段階スモールステップ」と「空書き」は小学校第3学年の学習内容である毛筆の基本点画の筆使い及び、終筆部分の筆使いの指導の際に有効であるが、その他の筆使いの学習場面においても活用できる方法である。

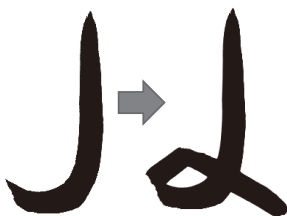
小学校中学年で学習する「平仮名」の「むすび」の筆使いは、平仮名特有の筆使いでもあり、「穂先」を「裏返す」など、子ども達にとって最も難易度の高い筆使いである。「むすび」には、㊤「よ」で使用される「横むすび」と㊦「す」で使用される「縦むすび」の2種類の筆使いがある。以下、「むすび」の筆使い学習について「4段階スモールステップ指導法」に沿って述べる。

## (1) 示範による「視覚理解」

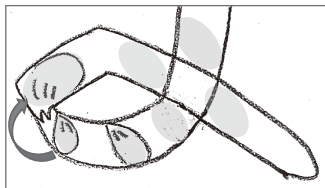
「水書板」等で、「むすび」を指導者が書いて見せる。できるだけ平易な筆使いとするため、注目させる要点は以下の程度に留めておく。

＜横むすび＞

- ㊦穂先を少し縦方向の斜めの角度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ㊧平仮名の「し」を裏返したような筆使いで「左」にはらうように進め、筆圧を弱めて止める。
- ㊨穂先を裏返して平仮名の「へ」を書くように進めて止める。



ここで「穂先」を裏返して「へ」を書くように進む



＜縦むすび＞

- ㊦穂先を少し縦方向の斜めの角度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ㊧筆を止めて「左」にはねるように進め、筆圧を弱めて止める。
- ㊨穂先を裏返して、そのまま右上から右下に進め、斜め左下にはらう。

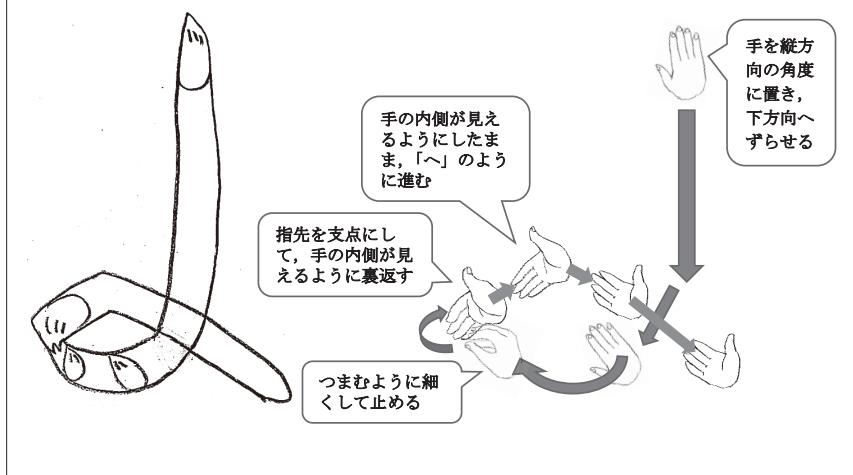


## (2) 空書きによる「筆使い体験活動」

手のひらを「穂先」に例えてイメージするように指示する。「むすび」には「穂先」を「裏返す」筆使いがあるため、手のひら「外側」を「穂先の表」とし、手のひらの「内側」を「穂先の裏」として表す。「むすび」は、特殊な筆使いであるため、子ども達には非常に難易度が高く、実際に筆で書く前の「空書き」によるイメージトレーニングが有効である。示範と同じ要点で指導者と共に一斉に空書きさせる。

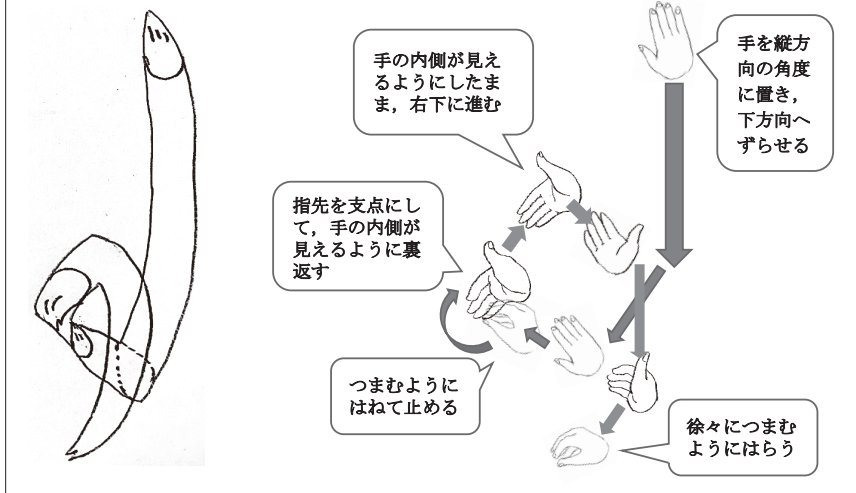
### <「横むすび」の空書き>

- ⑦手のひらの外側が見えるようにして、少し縦方向の斜めの角度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ⑧平仮名の「し」を裏返したような筆使いで「左」にはらうように進め、指先をつまんで細くしながら（筆圧を弱めて）止める。
- ⑨手のひらの内側が見えるように裏返し、平仮名の「へ」を書くように進めて止める。

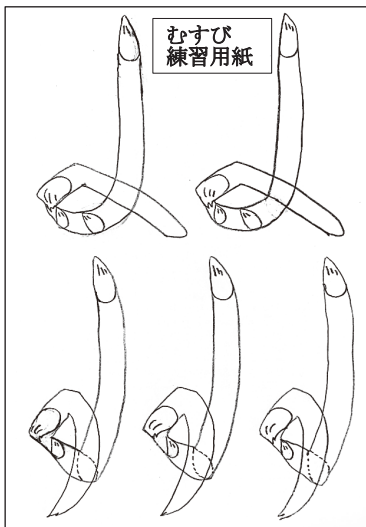


<「縦むすび」の空書き>

- ⑦手のひらの外側が見えるようにして、少し縦方向の斜めの角度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ⑧ほんの少し左に曲げて手を止めて「左上」にはねるように進め、指先をつまんで細くしながら（筆圧を弱めて）止める。
- ⑨手のひらの内側が見えるように裏返し、内側のまま右上に上げて右下に下げる。少し左に曲げながら、指をつまむようにしてはらう。



(3) ワークシート・毛筆による「筆使い補助書写活動」



左のような「かご字練習」ワークシートを使用して、「穂先」を表から裏に変えて運筆する「むすび」の筆使いが、視覚的に捉えて練習できるように工夫する。ここでも、示範と同じ要点を意識させ、筆に墨をつけて一斉に書写させる。

<横むすび>

- ⑦穂先を少し縦方向の斜めの角度に置き、角度を保ったまま下方向に進める。
- ⑧平仮名の「し」を裏返したような筆使いで「左」にはらうように進め、筆圧を弱めて止める。
- ⑨穂先を裏返して平仮名の「へ」を書くように進めて止める。

<縦むすび>

※省略

#### (4) 半紙・毛筆による書写活動

最後に、毛筆に墨をつけて半紙に「むすび」を書写し、発展して「むすび」を含む平仮名を「まとめ書き」として書かせる。これまで同様に示範と同じ要点を意識して書かせる。

＜「横むすび」を含む平仮名例＞

は な ぬ ね ほ ま よ る る る

＜「縦むすび」を含む平仮名例＞

お み む す

### 9. おわりに―成果と課題―

安田女子大学（令和3・4年度）・比治山大学（令和3～5年度）・広島大学（令和5年度）にて、小中学校教員養成課程履修の学生を対象に「4段階スモールステップ指導法」による筆使いの学修を実践した。その実践後に学生が書いた「学修の振り返り」から、「空書き」については「実際に書く時にイメージしやすい」「筆で書く前に手でイメージをつけるのでどのように筆を動かすのかが分かり易い」「イメージができやすく、視覚的に分かりやすい」という記述が見られた。

また、「筆圧の理解」については、「太く書くところは指を広げて、細くなる場所では指をつまむことで、子どもはイメージしやすいと思う」「手の動きにも違いがあってとても分かり易かった」という記述がみられた。

「4段階スモールステップ」については、「少しずつできていないところに気づき自信をもって取り組むことができた」「大切な部分を集中的に気を付けながら書くことができた」「いきなり半紙に書き始めるよりも少し自信や心の余裕が持てた」「不安が解消された」という記述がみられた。このように学生の「振り返り」からも「4段階スモールステップ指導法」及び「空書き」による筆使いの学修に一定の効果を感じることができた。

特に毛筆を使つての学修の前に、空書きをしたことで「筆使いをイメージすることができた」と回答している学生が多く、そのことにより「ポイントに集中して、自信を持って毛筆で書くことができた」と感じていることが成果である。

しかし、「むすび」の筆使いについてはやはり難易度が高く、筆使いを理解させることはできたがその時間だけで筆使いを定着することは困難であった。その後の講義の冒頭で「かご字練習用紙」を使用した短時間の反復練習を複数回行ったことで、全学生が「むすび」の筆使いを習得することができたが、今後の更なる指導法の改善が望まれる。

今後は、「行書」の筆使い指導にも本実践を応用し、指導法の一般化を試みたいと考えている。また、巢立・和田ら（2014）による筆使い習得のための補助教具に開発において開発中としている「空書き手袋」等、筆使いの指導効果を高める他実践について今後も情報収集して指導方法の更なる改善を図りたい。

### 参考論文・参考文献

- 1) 『書写（文部科学省検定済小学校書写教科書）』宮澤正明他 令和2年版 光村図書出版株式会社
- 2) 『新しい書写（文部科学省検定済小学校書写教科書）』平形精逸他 令和2年版 東京

書籍株式会社

- 3) 『書写書道教育史資料 第1巻 理論史・実践史』加藤達成監修 昭和59年(1984)  
東京法令出版株式会社
- 4) 「手本研究學年本位・系統的書方教授法全」野地清學・島崎林次郎(大正2年/1913)
- 5) 「甲種手本・書方指導の理論と實際」鈴木小江(昭和11年/1936)
- 6) 「國民學校藝能科・習字精義」水島修三(昭和16年/1941)
- 7) 『習字教育詳説』辻本兵一郎(昭和6年/1931)
- 8) 『書道精説と書方の新指導法』水戸部寅松(昭和9年/1934)
- 9) 「昭和二十二年度(試案)学習指導要領 國語科編」昭和22年(1947)12月発行
- 10) 「これからの書写教育では何がたいせつか」細矢肇(昭和45年/1970)
- 11) 「新しい書写学習指導の内容研究とその指導」新居邦夫(昭和44年/1969)
- 12) 「筆順指導の効果的具体策について」鎌田純(昭和50年/1975)
- 13) 「中学校國語科書写の行書指導における ICT 機器及びデジタルコンテンツの効果的な利活用に関する研究」清水陽一郎(2014)
- 14) 「文字を書き進める過程を重視した学習指導の実践」荒井一浩 加藤泰弘 中村和弘  
松本貴子 水株真由美(平成17年/2005)
- 15) 「書写教育における授業研究の視点—学習指導案に見る学習者への動機付けと指導上の工夫—」小竹光夫(1994)
- 16) 「横書き速書きスキルアップに関わる基礎研究」杉崎哲子・沓名健一郎  
『書写書道教育研究第27号』平成25年(2013) 全国大学書写書道教育学会
- 17) 「書字学習における空書に関する研究」齋木久美・瀬谷裕輔  
『書写書道教育研究第28号』平成26年(2014) 全国大学書写書道教育学会
- 18) 『新・字形と筆順』宮澤正明 平成25年(2013) 光村図書出版株式会社
- 19) 『きれいな文字の書き方』宮澤正明 平成26年(2014) 二玄社
- 20) 「書写における学習環境の創造～『書写実技教育支援コーディネーター』の配置によって～」巢立早希・和田圭壮(2014)
- 21) 「小学校書写用教科書(第1学年)における平仮名での『はね』の扱いに関する一考察」小林比出代  
『書写書道教育研究第27号』平成25年(2014) 全国大学書写書道教育学会
- 22) 「筆圧と穂先の動きに着目した基本点画の授業研究の視点」樋口咲子・津村幸恵  
『書写書道教育研究第27号』平成25年(2014) 全国大学書写書道教育学会
- 23) 「小学校で指導する楷書の毛筆基本点画と運筆法の変遷」樋口咲子  
『書写書道教育研究第36号』令和4年(2022) 全国大学書写書道教育学会

(ふじい こうじ 安田女子大学非常勤講師)